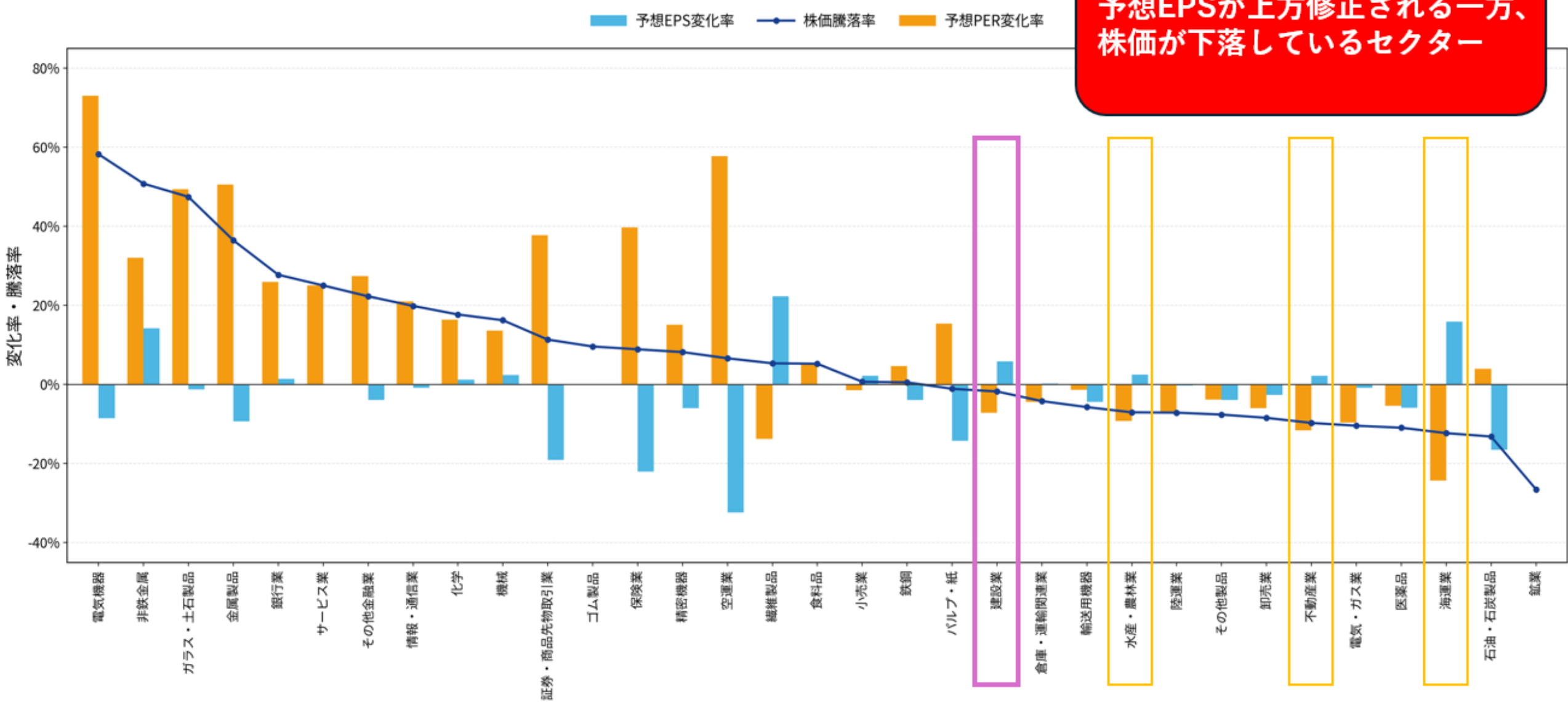

AI相場に隠れた有力テーマ

ダイヤモンド・フィナンシャル・リサーチ 仲村 幸浩

東証33業種の株価変動分析 6/22 vs 3/31

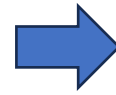
予想EPSが上方修正される一方、
株価が下落しているセクター



建設セクター(ゼネコン・サブコン)のポイント

●中東情勢による悪影響

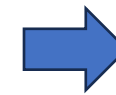
- 資材の価格高騰
- 資材の供給制約による工事停止



サプライチェーン上流に位置する大手企業に今のところ影響なし

●高水準な需要が続く

- 都市再開発・データセンター・半導体工場、電力インフラなど



「仮に再開発にキャンセル出ても問題ない」
それくらいに需要は旺盛

●限られた供給能力

- 労働者の高齢化と若年層の離職
- 2024年からの「時間外労働(残業)の上限規制」



受注時採算の改善トレンドは継続

●1Qは高進捗で株価上昇の傾向(特にゼネコン)

大成建設(1801)

●5月本決算時のポイント

- 営業利益ほぼ横ばいも、2期連続で過去最高の見通し
- 配当性向を30%→40%へ引き上げ
- 自社株買いの発表なし
- 経営陣からのコメント
 - ▶「前期(26.3期)ほど保守的でない」
 - ▶「ここからの受注時採算の改善はチャレンジング」

●今後の注目ポイント

- 自社株買い
 - ▶発行済株式数を1.4億株まで縮減する方針(現状1.63億株)
- 業績予想の上方修正
 - ▶追加工事等の織り込みが不十分
 - ▶受注時採算は改善幅はやや鈍化も、改善トレンドは継続

関電工(1942)

●27.3期 営業利益900億円(+8.3%)

□従来目標(670億円)

□受注高+10.6%(26.3期+13.0%) → 高水準な受注が続く

□粗利益率の予想16.8%

➢ 上期:17.0%(前期15.9%)

➢ 下期:16.7%(前期16.6%)



下期の方が利益率が高まりやすい季節性
中東情勢の影響を保守的に織り込んでいる

●自社株買い期待

□東電側の持ち株比率が低下

□ネットキャッシュに余裕